

大いちょう

令和7年8月29日
岐阜市立加納幼稚園
園長 藤井 佐由美

長い夏休みはいかがでしたか？！2学期は深まりの時期です！

44日間（7月20日～9月1日）の長い夏休みが終わり、2学期が始まります。

今年の夏も、異常な暑さでしたね。台風や線状降水帯による被害が大きかった都道府県もありました。皆さんの故郷は大丈夫でしたでしょうか。これからの世界では、これらが異常気象ではなくもはや通常気象なのかもしれません。一方、新潟県の渇水化によるお米の収穫にも心配がありますね。新潟といえば、花火が有名な県です。一生に一度は長岡の花火をみてみたいものです。

長良川の花火もとても美しいですね。観覧されたご家族はいらっしゃるのでしょうか。子どもたちの夏休みの思い出を聞くのがとても楽しみです。

私は、「大阪・関西万博2025」に行かせていただきました。出かける前には、手っ取り早く世界を知るにはいい機会くらいの軽い気持ちだったのですが、それを覆す感動でいっぱい会場でした。

噂通り、大屋根リングは圧巻でした。世界最大の木造建築物としてギネス認定されています。設計・監修には建築家：藤本 壮介氏が関わっており、「今は、世界中で『分断』が進み不安定な情勢が続いているが、万博は世界が一体となる機会」としたうえで、「海を見つめることで世界が広がっていく感覚があると同時に、リングの内側をむけば凝縮された世界が視界に飛び込んでくる。世界と自分がつながっているんだという実感を獲得してもらうために、人々がリングに上がって周囲を見渡せる構造」を考えられたそうです。大屋根リングの開放性を実現する上で鍵になったのが、「貫（ぬき）＝木造建築で柱と柱の間を水平方向につなぐ横材」を用いた構造だったそうです。「くさび」を用いて、「柱と梁」を連結する手法により、通常の建築で使われる斜めのブレース耐力壁（鉄骨構造の建物などで使われる柱と梁の間に鋼製の補強材を斜めに配置する壁）を必要としない。その結果、視線を遮るものが少なく空間に「抜け感」を生み出しているのだそうです。これが風の通り道にもなっており、快適でした。ただし、大規模建築であるが故に、その荷重に耐えられる金属製の特殊な「くさび」が用いられており、その技術を複数のゼネコンが協力して開発したとのこと。そのため、リングを歩くと3種類の異なる「くさび」のデザインを見ることができます。それは、「竹中工務店」「大林組」「清水建設」の3社で、工法にも微妙な違いがあるのだそうです。日本の木造建築の技術と最新の近代建築技術が融合して、世界にその技術の高さを発信する機会になっていると思います。



また、「京都大学総合博物館 准教授の塩瀬 隆之先生（昨年度の6月の講演会でお話くださった先生）」がプロデュースされた「日本館」のストーリーは驚きでいっぱいでした。

テーマである「いのちと、いのちの、あいだに」という言葉には、人と自然、技術と環境、過去と未来など、さまざまな“あいだ”をつなぐという思想が込められています。日本独自の「和」の精神を軸に、未来社会に向けた新たな提案を行う場として設計されています。

館内は3つのエリアに分かれています。

Plant：ゴミから水へ微生物による分解とバイオガス発電。暗闇に光がきらめく演出が美しいです。

Farm：水から素材へ藻類の力で未来の燃料・食料・医薬品を生み出す技術。藻とコラボしたハローキティ展示も話題です。



Factory：素材からものへ、3Dプリンターによる椅子製作。ドラえもんや変形ロボットとのコラボで親しみやすさもあります。

建築とデザインの魅力として、①円環状の木造建築：木材を組み合わせた円形の建物で、万博終了後には解体・再利用可能になっています。

他国のパビリオンにも影響を与えるようなサステナブルな思想が反映されています。②「和傘」モチーフの屋根：自然光を効率的に取り入れる工夫が施され、日本の美意識を感じさせるしなやかなデザインになっています。



展示・空間設計に込められた思想には、①空間構成：円環状の建築は、循環とつながりの象徴であり、始まりも終わりのない構造になっています。②展示体験：ゴミ→水→素材→モノの変換は、命の循環を可視化し、体験として落とし込む仕掛けになっています。③来場者の役割：日本館での体験は、自分自身の「いのち」と向き合う、つまり、展示は一方的ではなく、来場者の内面を映す鏡となっているのです。

じっくりと体験を進めていくと、突然視界に開けた空間が飛び込んできて、そこには大きな溜池のようなものがあります。この日本館の中心に静かに存在する“水”は、単なる装飾ではなく、実際に来場者が体験する「Plant」エリアで処理された廃棄物から生まれているのです。微生物の力によって分解されたゴミは、バイオガスを発生させ、そのエネルギーで水を浄化・循環させる仕組みとなっています。つまり、私たちが日常で捨てている“ゴミ”が、命を育む“水”へと変わるプロセスが、展示の中で実際に再現されているのです。日本館の中心に置かれたこの水は、私たちがどのように他者と、環境と、技術とつながっているかを問いかける、静かで力強いメッセージなのだと思います。



改めて、日常生活を平穏無事に送ることができることに感謝しながら、楽しかった思い出を噛みしめたいと思います。



7月12日（土）ソニー幼児教育プログラム保育実践論文 最優秀園 実践発表会の感想を多くいただきましたので、一部ではありますが、遅ればせながら紹介させていただきます。

保育・教育のプロの方々から見て、このような感想やご意見をいただけることは大変嬉しいことです。改めて、自慢の子どもたちや保護者、地域、小中学校、教育委員会などご協力いただいた全ての方に心より感謝申し上げます。

園庭で裸足になって、水や砂、絵の具など心も身体も開放される環境がとってもステキでした。子どもに負けない笑顔で遊ぶ先生方も魅力的でした。賑やかに遊ぶ中でも、一心不乱（言葉が合っていないかもしれませんが・・・）泥んこを集中して集めている子らもいて、静と動どちらの子どもも安心して遊びこめる環境が勉強になりました。

遊戯室の環境は圧巻でした。水の生き物側の入り口から入ったのですが、直ぐに蝶々の羽を付けた男の子と出会い、矢継ぎ早に水槽の生き物の話をしてくれました。そのまま舞台の中の『清水川ト』の魚の説明。懐中電灯をちゃんと説明書にあてて話してくれる姿は、（話さずにはいられない！）という気持ちがいっぱい伝わってきました。自分の体験（インプットされた）が自信となって誰かに伝えること（アウトプット）で、更に確かな自己肯定感や次への学びへの土台になっていくのだと感じました。

どの環境も子どもの発想や考えがありつつ、先生方の支えや一緒に考えていくという『共主体』という想いが伝わってきて本当に楽しい遊びでした。

子どもたちの『やってみたい』『なんでだろう？』『どうなるの？』『んって？！』『様々な想いを、教師がアンテナを張って聞き漏らさない。タイミングよく子どもの気持ちが、行動に移せるよう環境を整えたり、一緒に試行錯誤をしたりという真の部分が本当に素晴らしいと感じました。

それぞれの園が置かれている環境や、教育理念、建学の精神など違いはありますが、やっぱり『子ども』ありき！の幼児教育。実践発表を聞かせていただくだけでも、私自身が『心ときめく』瞬間が沢山ありました。実践の子どもたちや先生方は、どれほど『心ときめく』時間を積み重ねられたのかと思うと、そこに至るまでの先生方の環境構成の工夫や、子どもの気持ちの受け止め方など研鑽を重ねられているからこそだと思います。

加納幼稚園さんが岐阜にあって良かったです！岐阜市に幼児教育課さんができて良かったです！！このような貴重な会を開いてくださり有り難うございました。ソニー教育財団さんの『最優秀賞』を受けられたことだけが素晴らしいのではなく（もちろんとても特別で素晴らしいことなのですが）、ここに至るまでの、幼児教育へのあくなき追求心と信念や情熱。子どもを中心にしたぶれない教育理念と、それを実践されている先生方の『子ども』という存在へのリスペクトと愛情があることが何より素晴らしいです。あの『公開保育』の瞬間も日常。翌日から日常であるんだろうと感じました。その日常の質が高く本当に沢山の刺激と学びをいただきました。

研修は受けても実践しないと意味がない。大豆生田先生の言葉に合った通りですので、少しでもできることから実践して、自園の子どもたちも先生も保護者もワクワク心ときめく時間が増えていくようにしていきます。

引き続き学びの機会をいただけたら有り難いです。今後ともよろしくお願いいたします。

幼児教育課さん始め、加納幼稚園の先生方、岐阜東幼稚園の先生方、暑い中沢山のご準備をいただき有り難うございました。

園全体を公開して下さり、様々な場面を拝見させていただきましたことに感謝いたします。お部屋は、年齢毎、先生毎の差異がおもしろく、保育の意図を思い浮かべながら、仲間と話しながら回れたので、我々の中でも保育観、子ども観を擦り合わせる機会にもさせていただきました。

遊戯室では、子どもたちが当事者性をもって、自分たちの遊びを初めて会う大勢の大人に話してくれる姿に驚きました。自分の探究したいことを存分に追求する環境をつくってもらい、やり込んだ子ども達の姿なのだろうと感じました。また、水族館へいったのに、魚や水槽ではなく、エレベーターやコリドー（回廊：段ボールのトンネルのこと）に興味を持った子どもをあそこまで応援してあげる保育者の、子ども主体の遊びへのコミットメントの強さに大きな学びを頂きました。

子どもたちのやりたいこと、好きなことにとことんのめり込む姿に感動しました。日々、明日はこれしよう！と楽しみに登園する子どもこそ、本来の子どもの有り様なのだと気付かされました。ここまでくのに、どれだけの教師間、子どもと教師間の葛藤があったのだろうか…と想像しました。教師の思いで子どもを動かすのではなく、子どもの想いを教師が精一杯くんでやりたいことをかなえる努力を続けていらしゃった日常を垣間見た気がしました。

子どもの願いに寄り添い、常に子どもの心もちの変化を読み取ろうとする伴走支援のスタンスをとるには、かなりの教師の意識改革が必要であったであろうと感じました。ただ、子どもの好きなようにさせておくだけでは決して生まれない環境構成や意図的な人間関係づくりや働きかけなど、奥深く継続性のある研究だと思いました。設定保育で画一的な制作活動をまだまだ実践していることを反省し、教室掲示も個々の好きなこと、作りたいことをそれぞれが形にした共同作品となっていることにも衝撃を受けました。

環境をめいっぱい、広く、ダイナミックに使われているのがとても素敵だなと思いました。どの子どもたちもイキイキしていて、自分の好きな遊びをとことん遊びこまれている様子がよく分かりました。いろいろなこと、いろいろな角度から興味をもてるような工夫がたくさんされているからこそその姿なのかなと感じました。

まず初めに、多くの先生方や保護者の方々、地域の方々などたくさんの方が関わっておられるのにも関わらず、みなさんが同じ方向、同じ目標をもって子どものためにと取り組まれておられることがとてもよく分かりました。たくさんの方々から見守られている子どもたちは、本当に伸び伸びと、“やってみたい”という気持ちになり、実現しようとする力がどんどんついていくのだと感じました。

園に入ると、そこはまさにワンダーランド！

園庭、廊下、保育室、遊戯室と丁寧に子どもとつくられてきた環境がふんだんにあり、そのひとつひとつを見てとっても子どもの声がきこえてくるようなものでした。

また先生がどこにいるか分からないくらいのさりげない存在になっておられるのが、とても素晴らしいと感じました。

環境構成が工夫されており、子どもたちが飽きずに活動にのめり込んでいる姿をたくさん見る事ができました。

シャワーで水が出てくるのではなく、下から水を屋根まであげて屋根の水が流れて落ちてくる様子は、見ているだけでもさまざまな感性が育成できそうです。水鉄砲の的当てでは、先生が「ケーキにろうそく立てるよ 何本かな いーち、にー…」と男児に声かけをし、少し離れた場所で先生の描くろうそくを見ながら、一緒に男児も数え、手で先生と同じ動きをしていました。この姿を見て、強制的に教えるのではなく、自発的に学ぼうとするための意図的な指導の小さな積み重ねが、10の姿につながっていくのだなと感じました。

ハンドベルの演奏、とても癒されました。

もっと小中学校の先生にも幼児教育を知ってほしいなと感じています。土曜日の公開だけでなく、平日の公開もあれば、出張で参加することで、小中学校の先生方にも学ぶ機会が増えないかと思いました。

このような交流の機会、学び合う機会が増えることを願っております。

今回は参加させていただき、本当にありがとうございました。

それぞれの場所で、子ども達が自分のやりたいことに向かって遊ぶ様子がとても印象強かった。そこで、子どもの気持ちに寄り添いながら先生が援助したり共に楽しんでいたりする姿がとても素敵で、自園でもそのような活動や遊びを展開していきたいと思った。

子どもが興味をもったことや、好きなことに没頭して遊びこむことができる環境構成がされていること。そこで、友達同士や先生との対話があり、信頼関係が築かれ安心感の中で過ごせていることが、研究の成果に繋がっていると思った。先生方一人ひとりが、研究の意図を理解して、意欲的に取り組むことができたからこそ、とても内容の濃い充実したものになっていることも感じた。そんな取り組みが自信になり、子ども達の健やかで豊かな成長に繋がっていると思う。そんな研究や実践について知ることができて感謝している。

最初は1日だから長いかなと思った研修会だったが、始まってみると、もっと幼稚園の様子をみたかったし、話ももっと聞きたかったのもので、とても充実した内容だと思う。遠方からわざわざお越しいただいていた方もいらっしゃる、それだけ注目されて、内容も魅力があるものだったということだと思った。ありがとうございました。

子どものつばやきや思いを丁寧に拾い、それを膨らまし遊びの発展に結びつけていく先生方の姿勢や思いに感銘しました。子どもの思いに寄り添うと言っていますが、寄り添うだけでなく、思いをしっかりと聞いたり時に提案したりと、保育者側の柔軟な考えが不可欠であると思っています。職員全体での統一された保育教育への思いがしっかりとされていて、きっと皆さん保育教育を語れるんだろうなと思いました。現場での参考にします。

日々の保育をしっかりと言語化されて研究され最優秀園に選ばれたことは心よりお祝い申し上げます。おめでとうございます。保育の世界は子どもたちの行動・言動・思いに、その場その場対応していかなければならず、それを日々振り返りながら明日に向かってさあどうしようかと考えねばならず、でも正解がないから楽しさもあり、子どもたちにいつまでも成長させられます。今回参加させていただき、改めて保育の面白さを感じました。また明日から頑張ろうと思います。

探究と創造の高まりの取組の出口の姿を見せていただいたと思っております。子ども達が活き活きと活動しており、一人一人の子どもが自分なりの思いや仲間と意思の伝え合いを大切にしながら、ここまで探究、創造しながら取り組んできたことがよく分かりました。

加納幼稚園だけでなく、地域の小中学校や保護者にも参加していただき発表され、幼稚園・小・中学校、そして保護者がそれぞれ学び合える素晴らしい発表会だったと思いました。

大変なご苦労があったと思います。ご苦労様でした。そして、ありがとうございました。

公開保育が特別な日ではなく、子どもと先生で日々積み重ねている日常の一端であることを改めて感じました。

また、子どもたちの日常の生活が充実するために、先生方が保育について掘り下げ、チームとして幼稚園全体の保育をより良いものにしていくことが伝わってきました。

子どもが生き物へ興味を持つことは多々ありますが、教師が少し仕掛けていくことでその興味は更に広がり、探究心を持って向かうことができることを感じました。

少しの仕掛けは日々の子どもの様子を見ていないとそのタイミングを逃してしまいます。どれだけ先生方が子どもたちの姿を観察し、想像し、汲み取ろうとしてみえるかが伝わりました。

子どもたちと生活を創り上げてきた過程や、環境設定、先生方の関わりなど学ばせていただくことが多く、明日からの

保育に取り入れたいことばかりです。ありがとうございました。

どの遊びも「今までの遊びの過程が見えるなぁ」と思いました。子どもたちが、興味を持ち始めた姿から、こんなことを面白い！と感じ、試行錯誤しながら、もっともっと面白くなっていくその過程がまさに探究だなぁと感じました。それが子どもたち先生たちだけで完結するのではなく、地域や保護者の方など広く発信されていることが素晴らしいなぁと思いました。自宅の近くに加納幼稚園があったら、我が子も絶対に入園させたいな！と思いました。

子どもたちの笑顔、楽しそうな姿が印象的でした。

また、人魚のショーの迷路で話しかけてきた子どもの表出力、自分のショーだという自信をもってお客さんに関わっていく姿勢がありました。それは、やりたい、を認めてくれる保育者の支えがあること、安心して、挑戦できる環境があることから生まれたことだと強く感じました。園として大切にされていることが組織として共有され、実践されてみえる素敵な園だと伝わってきました。ありがとうございました。

子どものやりたい、を認め、寄り添っていくことで、保育者も、保護者も楽しみながら、一緒に子どもたちの素敵なストーリーを紡いでいく、まさに共主体の保育でした。

保護者の方の演奏も素敵でした。藤井園長先生をはじめ、教職員の皆様、関係者の皆様、本日はありがとうございました。皆様が日々、真摯にこどもに向き合って組織的にこどもの願いに寄り添い、一緒にワクワクを生み出されてみえること、そのご努力が、こどもたちの姿から強く伝わってきて、感動しました。私も頑張っていきたいです。本当にありがとうございました。



【9月の保育について】

【3歳児】

- 園生活のリズムを取り戻し、身の回りのことを自分でしようとする。
- 先生や友達と一緒に戸外で伸び伸びと体を動かして遊ぶことを楽しむ。

【4歳児】

- いろいろな運動遊びを通して、体を動かす心地よさを味わう。
- 先生や友だちと一緒に考えたり、試したりしながら遊ぶ。

【5歳児】

- いろいろな遊びに自ら挑戦し、思い切り体を動かす心地よさを味わう。
- 友だちと思いや考えを出し合いながら、遊びを進めたり創り出したりする。



お知らせとお願い

◆夏休み中に1階ホール壁に、「**ボルダリング**」が出来上がりました。昨今の熱中症対策により、戸外で体を動かして遊ぶ機会の減少を鑑みて、室内でも楽しく体を動かして遊べる遊具を考えました。これは、2024年度ソニー幼児教育支援プログラム保育実践論文において最優秀園受賞の賞金を活用して設置したものです。子どもたちが、適度な抵抗を感じながら楽しく挑戦してくれる機会になることを願っております。

◆2学期からの教育活動について

◇今までと同様、欠席や遅刻、早退などについては、スマート連絡帳にて、8時10分まで（時間厳守）に、備考欄にその理由と共にご入力いただきますようよろしくお願いいたします。※新型コロナウイルスなどの感染症に罹患した場合は、速やかに幼稚園までお知らせください。

◇園児の制服については、熱中症対策の一環として、期間を延長し**9月30日（火）まで「制服不要」とさせていただきます。**10月1日（水）からは、夏制服・麦わら帽子での登降園となります。（※状況により、期間を変更することがあります。）

◆遠足について

年長児：10月31日（金） 予備日11月5日（金）

※現地集合⇒父親の保育サポーターを募集します。

年少・年中児：10月29日（水）

※バスを利用するため、雨天決行（雨天時：午前のみ）となります。

詳細については、後日通信等で発信させていただきますので、ご確認ください。

◆加納天満宮天神祭りの参加について

10月25日（土）に、加納天満宮の天神祭りが行われます。地域のお祭りとして、年長児が参加します。午後を予定しておりますが、時間や内容等は、また後日お知らせいたします。

◆8月18日（月）から9月5日（金）までが、令和8年度新入園児の募集期間となります。このまま入園希望児が少ないと、1クラスになってしまう可能性があります。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。どうぞ、ご近所・お知り合いに対象のお子さんがいらっしゃるいましたら、お声かけくださるとありがたいです。また、私たち教職員もPR活動に励んでおりますが、もし保護者の方で、ポスティングや紹介資料の配布などにご協力いただける方は、職員室までお声かけください。

より多くの方のご入園を心よりお待ちしております。

◆現在引き続き、預かり保育時間の延長と冬休み・春休み期間の預かり保育の実施について、資料を作成の上岐阜市に要望をしている最中です。その中で、現在の預かり保育の利用者が少ないと、必要性を認められにくい傾向があります。無理に利用する必要はありませんが、遠慮して利用を控えていらっしゃる方がみえましたら、ぜひお気軽に利用申請をしてください。なお、申請は前月の20日までをお願いいたします。